

# まき 報 廣

1980  
2/25

発行／新潟県巻町

編集／企画課

昭和53年11月2日第3種郵便物認可

毎月2回 10日・25日発行 1部10円

第334号

## もうすぐ

## 一年生

### 巻北小で「一日入学」



巻北小学校（遠藤慶作校長）では二十一日午後、今春四月に入学する児童たちを集めて「一日入学」を行いました。

お母さんに付添われて登校した百六十七人の児童たちは、四教室に別れて、ちよびり「学校生活」を味いました。教室では二人の先生から、あいさつの仕方やトイレの使い方をおそわったり、クレヨンでドラエモンなどの絵を書きました。

また、退校時には「きめられた通学路を覚えられるように」と、通学班ごとに上級生のお兄さんやお姉さんがいっしょに帰ってくれました。

## 体温計

### 酒と肝臓

アルコールは胃腸からなまのまま吸収されて血液の中に入り、主に肝臓で酸化（分解）されます。お酒を飲む量が多ければ多いほど肝臓に負担がかかるわけですが、多くの実験から、アルコールが肝臓を直接いためるというより、結果的に毒物に対する肝臓の抵抗力を弱めるものと考えられています。その典型的な例が、肝臓のかたく縮んでしまう肝硬変症です。回復のむずかしいこの病気は、お酒そのものもさることながら、大酒家がありがちな栄養の欠陥―つまり酒ばかり飲んで副食物を食べないことに大きな原因があります。お酒の好きな人は、酒量を減らす苦勞をするより、肉類や魚、豆腐、豆類など肝臓を保護するタンパク質を十分にとること。といて副食さえとれば、いくら飲んでもいいというわけではありません。健康な人で清酒なら一日二合、ビールなら二本、ウイスキーでは小カップ五杯程度にとどめるようにしましょう。晩酌も毎日やるより一日おきの方が肝臓を休める意味でよいのです。

# 54年分

## 農業所得標準決まる

### 納税相談は2月29日から各地区で

巻町農業所得審議委員会が二月十二日役場で開かれ、二十九日から行われる納税相談に必要な昭和五十四年分の農業所得標準を決めました。ここで主な内容をお知らせします。

- ▼水稲の所得標準(十アール)
  - ・角田地区：八万二千元
  - ・他の地区：九万八千八百円
- ▼普通畑の所得標準(十アール)
  - ①固定経費：減価償却の定額法(車)
  - ②比例経費：(十アール当り)
    - ・耕うん機：二千四百円
    - ・トラクター：三千円
    - ・動力田植機(育苗施設有)：三千五百円
    - ・動力田植機(育苗施設無)：千五百円
  - クローラー：千九百円
  - バインダー：三千円
  - コンバイン：三千円
  - 大型乾燥機：千五百円
  - ハーベスター：千八百円
  - 普通トラクター：千九百円
  - 軽トラクター：千九百円



▲忘れずに確定申告を……

巻町農業所得審議委員会が二月十二日役場で開かれ、二十九日から行われる納税相談に必要な昭和五十四年分の農業所得標準を決めました。ここで主な内容をお知らせします。

## 献血にご協力を

(町と青年学級が呼びかけ)  
3月16日(日)役場南口で



▲献血のポスター作りに励む青年学級のみなさん

献血本数の不足をおきなおうと、巻町青年学級(関田勝己代表)では、今年も身近な社会問題である献血の推進を決め、参加を皆さんにも呼びかけています。

町でも全面的に後援しており、三月十六日(日)に臨時の「献血」を役場南口玄関で、午前九時三十分から午後三時まで行いますので、あなたもぜひ、ご参加ください。

青年学級は公民館が主催する社会教育活動の目的とする学級で、現在、勤労青年四十三人が加入し毎月一回の定期学習会のほか自主的な活動を行っており、「献血」の推進は昨年が続いて今年で二回目です。

昨年三月二十一日の臨時「献血」

満十六歳以上六十五歳未満で、体重が男子四十五キログラム、女子四十キログラム以上の健康な方ならどなたでも献血できます。

採血前に医師が健康診断をし、無理な採血はいたしませんので、安心して献血できます。

また、この際A B O式とRh式の血液検査をしますし、肝機能、コレステロール、総蛋白などの検査をし、万一異常のある場合は別途ご連絡いたしますので、あなたの健康管理にも役立ちます。

## 54年中 交通事故二百六十八件

### 巻警察署「増える女性ドライバー事故」

巻警察署(吉井正弘署長)ではこのほど、昨年一年間同署管内で起きた「交通事故発生状況」をまとめました。

まず、五十四年の発生件数は二百六十八件(対前年三十二件減)で、うち死者七人(一人減)、負傷者三百三十八人(五十六人減)となっており、五十二年に比べて

◇年次別事故発生状況 (△印は減少を示す。)

	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	前年比(%)
発生件数	408	402	306	300	268	△32(△10.7%)
死者数	11	11	11	8	7	△1(△12.5%)
負傷者数	546	512	406	394	338	△56(△14.2%)

七割件数が減りました。昭和五十年と比べると三十五%の減で、年々着実に事故が減る傾向にあります。

しかし、事故そのものは依然として多く、町村別では巻町が八十四件と、郡内七町村の中ではワースト・ワン。路線別で見ると、国道での事故は減っているものの、逆に県道や町村道での事故が増えています。とくに、町なかの狭い交差点では要注意。

時間帯では、午後四時から八時までの帰宅時間帯に集中しており、曜日別では、土曜日に多発していることから、疲労が積って注意力が散漫になっていることが一番の事故原因と思われる。

また、昨年は子供や高校生の事故は減りましたが、老人や女性ドライバーの事故が増えました。このため、巻警察署では各地区の老人クラブを細かく巡回して、①正しい道路の渡り方②正しい自転車の乗り方③明るい服装の着用などをお年寄りから知ってもらい事故の減少を図っています。

### 女性ドライバー事故43件

一方、女性ドライバーの事故は四十三件と、発生率が県内平均を大きく上回っているため、巻警察署では安全運転のための女性ドライバー組織「ミニ・ドライバー・クラブ」(仮称)をつくって対策に当たる方針です。

この女性ドライバー・クラブ発足の準備を進めている竹内昭夫交通課長は、春の交通安全運動までに間に合うよう、いま女性ドライバー事故の特徴をピックアップしながら、運転指導書を作成中です。

竹内課長は女性ドライバー事故の特徴として、①わき見運転②交差点での安全確認③一時停止違反をあげ、「たとえば、子供や夕食の準備などを考えながらボンヤリ運転をしたり、商店



一方、町でもお母さんは家庭

の看板やPRに目がゆくわき見運転、交差点では一回の簡単な左右確認だけですぐ飛び出したり、また、道路標識を見ないで運転するなど、とにかく、周りの状況を目に入れないというマイペース運転が事故の原因となっています。」と、説明してくれました。

事故原因が運転に際しての最も基本的なミスによるものが多いこと、また若い女性の八割近くが運転免許を持っていないことなどから女性ドライバー・クラブでの運転実地講習や安全運転のミニ・クラブなどを通して、かなりの事故を未然に防止できるものと巻警察署では考えています。

### 死亡事故七件、自損が七割

昨年の死亡事故は七件、うち五件が自損事故です。飲酒運転と原付二輪ノーヘルによる死亡事故が二件づつありました。

巻警察署では、ヘルメットをかぶる運動を推進するとともに、飲酒運転の防止にも力を入れています。昨年巻署管内の交通取締りで飲酒運転で検挙や逮捕された人は約百六十人。職業別では、農業・大工・左官・土工・工員の人たちが多くいるということです。

これは、「お茶がわりの風習」がまだ根強く残っていて、接待する側も酒を出さないとケチと思われるから酒をすすめる、接待される側も同じ町内・部落内だからいだろうと、ごく軽い気持ちで受けているためです。

# 巻町農協が優良組合に

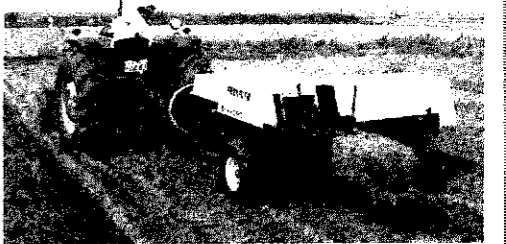
## 全国農協「積極的な営農活動」中央会が表彰

このほど、巻町農業協同組合（小林清一組合長）が、全国農業協同組合中央会から五十四年度の優良組合として表彰されることになりました。

今回表彰される農協は、特別優良の二農協を含めて全国で十農協です。受賞の決った農協は、組織活動・営農指導活動・財政基礎ともに優秀と認められたもので、経営主義に陥りやすい農協運営を克服しながら、農家を主体に積極的

で健全な運営を推進しているのが、受賞の要点となっています。

巻町農協では昨年十一月にも北陸農政局長賞を受賞しており、今回の受賞について小林組合長は、「本当に名譽なことだと思います。ただ、私たちはあたり前のことをあたり前にやってきただけなんです。……」と、謙虚に受けとめており、「ともかく、相次ぐ受賞が組合員同士のまとまりにプラスになれば嬉しい。」と、語ってくれました。



▲土づくり運動も行っています

現在、巻町農協の組合員は四千四百八十五人。耕地面積は三千七百七畝で、うち水田が七十八％に当る二千七十七畝を占めています。ほかにスイカ・大根・タバコなどの砂丘畑作、柿やブドウなどの果樹栽培、キユウリやトマトなどのハウス栽培、ブタや牛の畜産など幅広い分野で生産が行われており、巻町農協ではバランスのとれた営農指導活動を推進しています。

生産者組織の面では、十四の作目部会を設けて年二回の大会を開き、生産や出荷の計画や技術指導、精算、反省、研究などを行ったり、随時、現地指導会を持って意思の疎通を図っています。

一方、青年部は六支部三百九十九人で、農業祭参加や営農研修会、農政講演会、作目別の研究会などの活動を続けており、婦人部は五支部千四百五十八人で、自営学級や料理教室、若妻大学、くらしの教室、問答学習などの活動を通して、農業を主婦の立場からバックアップしています。

農協事業の面では、漆山や角田浜地区で生産組合を組織し実施している第二次農業構造改善事業や、妻の集団転作、野菜生産団地の活動推進、柿団地の育成、砂丘畑作地と水田地帯との出荷時の労働力交換と農作業委託、農協トラクター貸し出しによる畑作の省コスト対策、ワラを堆肥として有効利用しようという「土づくり運動」など、農協と農家が歩調をそろえて地域の特殊性を考えながら、積極的な活動を行っています。

表彰式は三月六日、東京で開かれる全国農協中央会通常総会の席で行われます。

# 急救車利用に

## ついてのお願い

昨年一年間の急救車の出動件数は五百一件、うち死亡三件、重症（傷）百十三件、中等症（傷）百十二件、軽症二百七十三件でした。

急救車は、事故や急病ですぐ病院へ運ばないと生命が危い人のため、出動することを旨としています。

しかし最近、急救車でなくとも病院へ行けるという人も、かなり

り急救車を利用していません。

住民の皆さんの良識ある判断とご協力をお願いします。



◇消防・防災テレビPRご案内

▼BSNテレビ：毎週金曜日午前十時二十五分から五十分間。  
▼NSTテレビ：毎週日曜日午前七時二十五分から五十分間。



# バングラデイシユで医療奉仕活動

## 看護婦・斎藤セイさん(松山)が帰国

バングラデイシユで二年五カ月も医療奉仕活動を続けてきた町出身の看護婦・斎藤セイさん(二十九歳)が、無事任務を終えて故郷松山に帰省中です。

斎藤さんは看護学校、助産婦学

校を経て東京の病院で四年ほど看護婦の仕事をしていましたが、昭和五十二年外務省の外郭団体・国際協力事業団が独立間もないバングラデイシユへの医療協力員を募集していることを知り、これに参

加し、同年八月から五十四年十二月三十一日まで、現地で活躍してきました。

バングラデイシユは旧東バキスタンで、一九七一年末の第三次印巴戦争の結果独立したものの、経済的混乱などから、政情は不安定で多くの国民は飢えと貧困にさいなまれている国です。

当時、日本の新聞やテレビでも洪水に流され飢えと疫病に苦しむバングラの人たちや、寄生虫でお

腹のふくらんだ子供たちの姿が、さかんに報道されていました。

斎藤さんが派遣されたのは、首都ダッカの南四十キロにある水田地帯で、人口十三万人のDND特別地区。貧富の差は激しく、その多くは小作や日雇いの貧しい人たちがばかりです。

同地区には医療センターが設けられており、現地人スタッフ七十人が斎藤さんの到着を待っていました。しかし、スタッフのほとんどが素人同然で、斎藤さんの初仕事は彼らの教育から始まりました。また、地区に三百人ほどの「とり上げバアさん」(産婆)にも、清潔で正しい助産方法を教えるなければなりません。

語を必死になって覚えさせました。

各家庭を巡ってみると、貧乏人の子どもの典型で、平均家庭で子供が六人、子供が十人という家庭もめずらしくはありませぬ。ワラ屋根と土壁の小さな住いに、ひしめき合って暮らしており、衛生状態も悪く、牛馬を洗う池の水を

飲用していることから、八割近い人たちが寄生虫に悩まされています。

そこで斎藤さんは、村人たちを集めて、「避妊による家族計画」や「公衆衛生」の講習会を開くとともに、妊婦には母子手帳を作って健全な赤ちゃんを出産するように指導したり、井戸水を利用することで寄生虫をなくすることに努力しました。

また、いままではほとんどやらなかった集団検診や予防接種も実施したのです。

同僚の日本人看護婦は激務に耐えられず途中で帰国しましたが、斎藤さんは一年の派遣期間をのびしもらって現地に残り、医療奉仕活動を続けました。

「向うの生活が私に合っているのかア、香辛料のきいた食事も好きでしたし、毎日がとても充実していました。」斎藤さんは向うでの生活をなつかしそに語りながら、「私を最も必要としているところで精一杯働きたかったんです。」と、さっぱりとした口調で参加の動機を話してくれました。

教育を終えたスタッフを地区内のあちこちに配置する一方、斎藤さん自身も積極的に村々に出向いて実態調査を続けながら、言葉の障害をなくそうと、二カ月でベル



▲斎藤さんは、18歳の母親ラーマンさんの赤ちゃんの名付け親になりました。

「サイトウサン、サラムレイクン(こんにちは)と、心にしみこむような笑顔を見せるようになりました。そしてチャツ(紅茶)や食事に招かれたり、個人的な相談も受けるようになった

斎藤さんはいま、松山の実家でバングラデイシユでの体験をレポートにまとめながら、自分の力量が精一杯発揮できるこれからの「進路」を模索しています。

# 早く申込みを

## (心身障害者) 扶養共済制度

心身障害者を扶養する保護者の方がたには、自分の死後、残された障害者が生涯にわたって幸せな生活を送ることができるかどうか——という大きな不安があるかと思えます。

心身障害者扶養共済制度とは、残された障害者の生活の安定を図るため、加入された保護者の方が

たから毎月納入される掛金を財源として、加入者に万一のことがあった場合、障害者に毎月二万円の年金が支給されるというものです。

**加入の要件**

▼加入者：①心身障害者の保護者 ②県内に住所を有する者 ③年齢が六十五歳未満の者 ④特別の疾病または障害がない者

▼障害者：①精神薄弱者 ②一級から三級までの身体障害者 ③その他 ④②と同程度の障害者

なお、ここでいう加入者の年齢は、毎年度四月一日における満年齢によります。

そのため、生年月日が大正三年四月二日から大正四年四月一日までに生まれた人は、昭和五十五年

三月三十一日までは六十四歳と取り扱われるので加入できます。しかし、それ以後になると六十五歳になり、加入の要件に該当しなくなりまます。

いままでも、加入資格がなくなつてからの申込みがみられますので、加入を希望する方は早目に役場社会課へ申込んでください。

(第三種郵便物認可)



### 旧正月のモチつき

巻南小学校

巻南小学校では五日、体育館に全校児童を集めて旧正月の「モチつき大会」を楽しみました。  
当日はPTAで用意した七つのウスでモチ米三十五斤をつきあげキナコモチにして味わいました。



### 鋭い気合、逮捕術競う

巻警察署



八日、巻警察署武道場で逮捕術大会が開かれ、巻・燕・新潟西・三条・加茂の五署選出の警察官の人たちが、日頃みがいている技を競い合いました。最近全国的に凶悪犯罪が増えていることから、競技は真剣そのもので、激しい体のぶつかり合いに、見守る選手や審判の間から「もう一本だ、ガンバレ！」などと、声援が飛んでいました。



### 雪のグラウンドで「どんど焼き」

県立興農館高校

興農館高校では、農村の行事を学びながら生徒間の友情を温めようと、6日夜全校生徒300人が「どんど焼き」を行いました。  
グラウンド中央に杉葉やワラなどで高さ7mの塔を立て、太鼓を合図に点火。炎を囲んで、モチつきや仮装行列、雪象のコンテストなどをして楽しみました。

### 募集 町営駐車場の月ぎめ契約

町では、町営駐車場の月ぎめ契約を次のとおり募集します。  
▷料金 1カ月5,000円(予定)  
▷契約期間 55年4月1日から56年3月31日までの1年間  
▷申込み 3月10日までに環境課へ  
※駐車予定台数を超えた場合は抽選で決めさせていただきます。

### 原付バイク免許出張試験

地元巻町で原付バイク免許の試験が受けられます。

- ▷とき 3月5日(水)午前10時から
- ▷ところ 巻地区交通安全協会講堂(巻警察署となり)
- ▷受験に必要なもの ①住民票1通 ②写真1枚 ③受験手数料2,000円(講習会参加手数料を含む)
- ※講習会は、3月2日(日)午前10時から午後4時まで、巻地区交通安全協会講堂で行います。
- ▷申込み 巻地区交通安全協会または、下記の交通指導員に申し込んでください。

長谷川一夫(10区)、大岩五三郎(1区)、渡辺英利(10区)、山崎功(仁箇)、柳沢輝夫(松山)、山本代蔵(角田浜)、山田忠広(漆山)、永井豊(馬堀)、頓所敏男(並岡)、阿部栄一(赤さび)

### 郵便局へも忘れず転居届を

3月から4月にかけては、就職や進学、転勤などで住所の変わる人が多くなる時期。郵便物が間違いなく新しい住所に届くよう郵便局へ転居届けを忘れずに提出してください。忙しい場合には、ハガキに次の事項を記入のうえ、巻郵便局(8区)あて郵送してください。①届出月日②届けを出す方の氏名③旧住所④新住所⑤住所を変更する方の氏名⑥郵便物転送の開始日

### ガールスカウト募集

ガールスカウト新潟県第18団(金子須美子団長)では、55年度の新人スカウトを募集します。

ガールスカウトの活動は、ひとりひとりが持っている素質や個性を伸ばしながら、よき社会人になるための基礎をつちかいます。

- ▷募集対象 4月から小学校2年生になる小女15人
- ▷申込み 公民館添え付けの用紙で3月15日(木)までに
- ▷主な活動 ①毎週1回土曜日に集会を開いています ②キャンプ ③ハイキング ④奉仕活動など

### 榛原町(静岡県)青年団が来町

「巻町連合青年団と親しく交流」



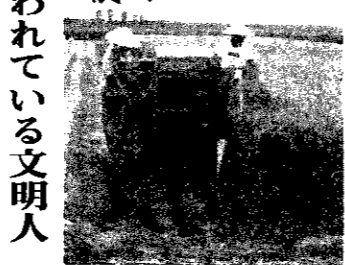
友情に乾杯!

「お茶とみかん」の町——静岡 榛原町の青年団員四十人が二月十六日から十八日にかけて当町を訪れ、町連合青年団員と交友を温めました。  
榛原町青年団の来町は、一昨年十一月に当町の青年二十六人(主に青年団)が教育委員会主催の県外研修で榛原町を訪問し、同町青年団のお世話になったことから、その「お返し」に招いたものです。十六日夜九時二十分、榛原町の青年たちはバスで十六時間も揺られて役場に到着、長旅の疲れも見せず、さっそく役員会議室での「受入式」にのぞみ、飯塚青年団長

が巻町連青の長谷川団長に榛原町の樹「もくせい」や「茶つみ人形」、新茶、みかんを贈りました。一行は、各地区の青年団員宅に民宿し、翌十七日午前中は興農館高校や農業大学校・シーサイドライン・弥彦神社を見て回り、午後からは公民館で巻町連合青年団員と「青年団活動」について話し合いを行いました。  
この夜、町青年団では榛原青年団員を教職員会館に招いて「さよならパーティー」を開きました。一同はビールで乾杯後、榛原町を訪問したときの八ヶ岳映画や、ダンス・キャンドルサービスなどを楽しんだり、「雪が多い」「夜は冷え込む」など巻町での印象や榛原町の思い出などを語り合い、友情を深めました。

最終日の十八日朝、役場前に集合した一行は、高野町長から「また、おいでください」とお別れのあいさつをうけ、町青年団員や関係者三十人に見送られながら、バスで一路静岡県を目指しました。

### 農業の道しるべ



### 飼われている文明人

巻町農業振興協議会 西村 欣策

「今日は、米の減反の問題や、病気がなった時の応急処置などを、こまかく聞かせてもらってよかった。」——これは自営者学級生たちの話である。

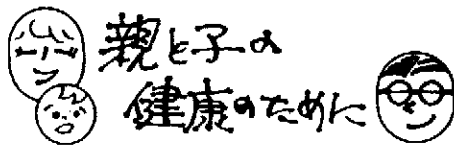
今の世の中は、「アフガニスタン」「ヘン連が攻め込んだとか、「アメリカ」で日本の自動車の輸出が問題になっている、というように世界のできごとは、何でもよく知っているが、身近かな、自分たちが生きるに必要な知識がいまいなことがわかる。

農業者が米のことを知らず、家庭の中の病人の手当てができなかつたら、世の中がどんなに便利になっても、人間たちは大きな矛盾と不合理の世界に住んでいることになる。

忙しさに追われて、自分の身辺を顧みるひまのない生活を文明というのだろうか。

「一時間いくらという世の中に、献立てのことなんか考えてもらえません。」という言葉に代表されるように、生きるための農業のことなんかどうでもよいが、金だけが欲しいという世の中でもある。  
断片的な知識をたくさんに押し込まれていて、ゆっくりものを考えたり、深く物事を見たりする余裕がない、というのが現代社会の姿である。  
こういうことを長く続けると、人間たちはだんだん自分を失ってゆく。  
家畜は毎日毎日飽食して、環境のよい文明の利器の中で育てられている。しかし、目的が自分のためでなく、肉や乳の生産のために与えられた環境だから、誰も家畜の生きざまを、幸せとは見ない。自分を忘れては、飼われる家畜のようになる。  
見かけだけ豊かに見えても、毎日の生活をどう築いているのかを忘れては意義がない。

「飼われた文明人」という形だから絶えざる不安や不信が渦を巻いている。  
「農業事情はきびしい」と、他人に言われると、同情されたように受け取って、あまい納得をする。  
本気で農業の再建を考え、生活の建て直しを考える時代が来た。



◆乳児検診

- ▷と き 3月4日(火)午後1時30分までにおいでください。
- ▷ところ 役場大会議室(3階)
- ▷対 象 54年8月生まれの乳児

♥献 血

- ▷と き 3月11日(火)
- ▷ところ ①西蒲土地改良区…午前9時30分から正午まで  
②立正佼成会…午後1時から3時まで

◆酒害教室

- ▷と き 3月17日(月)午後1時30分から3時30分まで
- ▷ところ 役場第7会議室(3階)
- ▷内 容 酒をやめたい、やめさせたいと思っている方
- ▷講 師 小串文夫先生(佐潟荘)ほか
- ※個別相談にも応じます。

作業停電

- ▶ 3月5日(水)午前9時から正午まで、12区の一部、葉萱場の大部分
- ▶ 3月18日(火)午前9時から午後2時まで、1区～2区と4区～12区の一部、東浦通りの駅通りより上手の一部、仲江通りの全部
- ▶ 3月21日(金)午前9時から午後3時まで、山島と潟中の全部
- ▶ 3月28日(金)午前9時から午後2時まで、3区の一部

外 科

- 2日 県立吉田病院 ☎ 吉田②5111
- 9日 竹前医院 ☎ ②2809
- 16日 県立吉田病院 ☎ 吉田②5111
- 20日 桑原医院 ☎ ②2221
- 23日 町立巻病院 ☎ ②3111
- 30日 榊原医院 ☎ 分水⑦3128

3月休日救急病院

内 科

- 2日 西川医院 ☎ ②6066
- 9日 長沼医院 ☎ ②2210
- 16日 町立巻病院 ☎ ②3111
- 20日 古寺医院 ☎ ②2016
- 23日 斎藤医院 ☎ ②2056
- 30日 高木医院 ☎ ②2208

3月の空ビン回収

町民の皆さん、町では不燃性ゴミとして捨てられている空ビン類を資源として回収し、埋立地を一年でも永く利用できるように、ゴミ減量作戦に取り組んでいます。

このため、昨年7月から巻地区について毎月一回「空ビン回収」を試行実施してきました。

3月は試行期間最後の月でもあります。空ビンは、決められた日と場所に整理して搬出して下さるようご協力願います。

3月空ビン回収日程表

日	4 日	5 日	6 日	7 日
曜日	火	水	木	金
回収地域	本町通り 東中道・中道 西中道 東6区全域 桔梗ヶ丘団地 横山バイパス	東浦通り 西浦通り 西川提防～ 割前線	仲江通り 東仲江通り 草薙道 旧仲江沿い	3 区 堀山団地 赤さび グリーンハイツ 変電所通り

☆老人生きがい対策事業の会場を変更

文化会館の建設によって、公民館は移転準備のため休館となりますが、これに伴って「老人生きがい対策事業」の会場などを次のとおり変更します。

3月実施計画及び会場変更

事業名	日 別	時 間	会 場
盆栽教室	20日	午前9時30分～12時	大正の家
民謡教室(踊) (唄)	3日・10日 22日	午後1時30分～3時 午後1時30分～3時	町営体育館 あたごの家
手芸教室	18日	午前9時30分～12時	大正の家
書道教室	14日・28日	午後1時30分～3時30分	諏訪の家
囲碁教室	13日・27日	午後1時～4時	大正の家
将棋教室	13日・27日	午後1時～4時	大正の家
絵画教室	4日・11日・18日	午後1時～4時	大正の家

昭和55年度

固定資産台帳の縦覧

3月1日～3月21日